

奥穂高岳山行報告

【山行日】2020年9月12～14日 土～月曜日

【集 合】岩舟支所駐車場 3:00

【費 用】マイカー1台 : 28,000円

【メンバー】CL:大西、SL 鈴木、 安西、石澤、
斎藤、清水(カ)、福島

9/12(土) : 岩舟支所P3:00 = 岩見平P
6:10/6:30 = 上高地 6:45/7:00 → 明神 7:45/7:55 →
徳沢 8:35/8:45 → 横尾 9:35/9:50 → 本谷橋
11:00/11:30 → 涸沢ヒュッテ 13:35

去年涸沢ヒュッテの紅葉を計画しましたが、紅葉の遅れで急遽焼岳&乗鞍岳に変更したので、今年は奥穂岳に登りたいと計画しました。少々天気に関心を感じながら岩舟支所に3時集合して上高地を目指しました。

雲が多く山脈を楽しめないと思いながら岩見平駐車場に到着しました。トイレを済ませ身支度を整



えタクシーに乗り上高地バスターミナルへ到着しました。ストレッチを済ませ、予定より40分の余裕の時間が得られ軽やかに明神館前に着き一休みし、次の徳澤園へ向かいます。

朝早いせいか、歩く人が少なくスムーズに足が運べます。徳沢では軽く一服し、次の横尾山荘に向かいます。自然に整った木立が少し色付いて、秋を感じながら足は前へ前へと軽やかに進みます。梓川の流れの音を聞きながらややキツイと感じる坂登ると、木立の中に建物の色が

見えもうすぐ横尾に着くと、少し早足ぎみに歩いた自分だがホッとしました。

横尾大橋前で休憩を取り、お腹も少し減っているようで果物やお菓子を頬張ります。

この吊り橋を渡るといよいよ涸沢ヒュッテに向かう本格的な登山道になります。整備された登山道を暫く歩くと、横尾岩小屋跡が出てきます。石や岩が多くなり穂高への期待が膨らむが、勾配がきつくなり中々思うようには進めません。

途中、樹間から屏風岩が見えてきて、立ち止まって見上げます。「エ～あんな凄い岩を登れるんだ～」と驚いていました。もう少し歩けば本谷橋があります、そこまで休憩を入れなくて頑張りたいが苦しくなりました。私は高度が上がると息が苦しくなり、情けない歩きになってしまいます。

立休みを入れトホホホ～です。ようやく吊り橋が出て渡ると昼食休憩となります。



スーさんラーメンが作られ、K 澤さんの手作りチャーシューがトッピングされ、皆さん頬張りほっとした笑顔になります。ここから涸沢ヒュッテまでは、2時間チョイのキツイ登りです。



普段より重いザックが、段々背中で覆い被さってくるのが分かります。

昼食後は急登から始まるので、ゆっくり一歩一歩足を運べば何とかなんと自分に言い聞かせます。急登の後はガレ場のトラバースが何回もあり、息が切れて立休みをとります。

辛い急登も少し緩やかに感じるようになりSガレに着き、そのまま登ると遠くにヒュッテの鯉のぼり(吹き流し)が確認できました。ここからも長い登りだった記憶が蘇ります。気温も上がり汗が流れるが、

一歩一歩前に足を出します。目の前に前穂～奥穂～北穂に囲まれた涸沢があるが、中々着きません。やっとヒュッテと小屋の分岐が出てきて、ここからはもう一息です。

頑張って登り上げ、「やった～」やっと涸沢ヒュッテに到着しました。

マスクを付けて受付を済ませます。部屋割りには2部屋もらえ、男女に別れてザックを降ろしました。

心配した雨にも会わないで予定より1時間早く着きホッとしました。

夕食までの時間を、テラスの屋台風に作られた席に座って宴会となります。

飲み物は思い思いに選んで美味しそうに味わっていました。夕食は温かいご飯やお味噌汁にハンバーグがメインとなっているご馳走です。とても美味しく、ゆっくり味わいました。

食後は消灯まで待てないで、直ぐに寝入ってしまいました。

9/13(日) : 涸沢ヒュッテ 13:05→大岩 14:10/14:15→ザイゼン取付点手前 14:20→涸沢ヒュッテ 15:25



今回の奥穂高岳登頂の第2日目の天気予報は、曇りだったが山の天気は変わりやすく、前夜から雨が降り出し穂高岳デビューは無理かなと思いながらも、3 時前に目が覚め外に出たがやはり雨でした。仕方なく、又、布団に入りました。今日の予定では、2班に分かれ我々3名は涸沢ヒュッテ～涸沢小屋～取り付点～穂高岳山荘～奥穂高岳頂上～穂高岳山荘～涸沢ヒュッテに戻る。

健脚組 4 名は、涸沢ヒュッテ～南稜取付き～南峰～北

穂高岳～北穂高小屋～最低コル～涸沢岳～穂高岳山荘～奥穂高岳頂上へ登り、降りは奥穂高岳～穂高岳山荘～涸沢ヒュッテに戻る予定でしたが、雨が降っているので様子見です。朝食が済んでも、雨は一向に止む気配はない。それどころか益々強くなり雷も鳴り出しました。何もする事がなく時間を持て余してしまいます。



女性部屋でお茶タイムをする事になり、色々な雑談や山のお話し等を聞かせて頂いていると、12時頃には雨が上がる気配になり、私も、誰もがワクワクしました。



だが、濡れた岩場は滑り易く危険です。各自、軽く昼食を済ませ、CL、SLから1時から3時迄に戻って来る約束で涸沢カール内への散策がOKになりました。SLを残し、いそいそと出発します。涸沢ヒュッテを出て直ぐ右側に、奥穂高岳の矢印の標識に気が付きました。後で新村橋～奥又白谷～慶応尾根～屏風のコル～唐沢カール迄、3時間半から4時間のパノラマコースだと解りました。

CLは涸沢メインストリートを進んで行きます。

涸沢小屋を通り段々と高度を上げて行き、後ろを振り向くと常念岳がダイナミックに見えます。

前を向くと穂高岳がおいでおいでと呼んでいます。とても身体が軽くこのまま頂上に立てるのではないか・・・と思いながら進みました。

CLが1時間たったので引き返そうとおっしゃいましたが、もう少し登らせてと私からお願いし、皆さんも付き合うよと、優しいお言葉が返って来ました。

CLが先に進んで歩き出し私の願いを聞き入れて頂き本当に嬉しかったです。

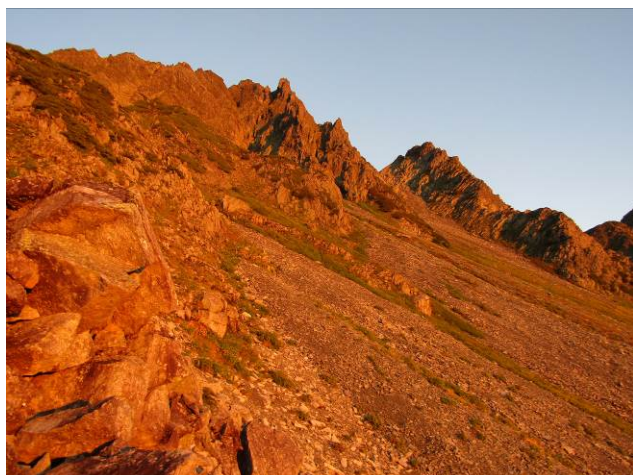
明日の健脚組の皆さんは予定を変更して涸沢ヒュッテ～ザイテングラード～穂高岳山荘～奥穂高岳～吊り尾根～前穂高岳～岳沢～上高地に降りる難関ルートを歩くのに体力を温存すべきなのに感謝、感謝です。有難うございました。



時間も経過したのでザイテングラード取り付き手前で引き返しパノラマコースとメインストリートコースの分岐に着き、CLが「来た道で戻りませう」とおっしゃいましたが、同じ登山道ではなくパノラマコースで戻りたいと、私は自分の気持ちを伝え優しいCLの事ですから、パノラマコースに向かって下さいました。歩き出して私は驚きました。こちらのコースの方がもっともって歩き易い。ちゃんと石畳になっていました。経験者が「百名山は登山道が整備されているから歩き易い」と言っていました。その通りだと

思いました。

さらに進み、見晴岩を過ぎ池の平を見ながら、又色々な事を思いながら涸沢ヒュッテに戻りました。



その間、途中で穂高岳から降りてくる人や、上高地から登って来たパーティーの人達が「雨と雷で怖かった」と、全身ずぶ濡れで憔悴した顔で話してくれた事を思い出していました。SLは、寒いテラスで2時間30分も我々を心配して見守ってくれていました。30分も遅れたにも関わらず、にこにこ出迎えて頂き、SLの気持ちを思うとぐっとくるものがありました。3時45分から反省会になり、日本酒、焼酎、ワイン等飲みながら、CLが涸沢ヒュッテの名物おでんをご馳走してくれました。美味しかったです。皆さん、

和やかに楽しく過ごし5時から夕食となりました。涸沢ヒュッテの食事は朝・夕食共にとても美味しく頂きました。スタッフも好印象で、サービスや清掃も行届いている山小屋でした。明日は快晴の予報です。健脚組の皆さんは涸沢ヒュッテから奥穂高岳を登頂し難関ルートで上高地に降りるのだと思い、そして我々3人は、上高地でゆっくり散策が楽しめると思いつつ7時頃床に就きました。

今回は、奥穂高岳の頂上には立てませんでしたが、涸沢カール内を歩け、皆さんの温かいお気持ちに触れての楽しい3日間でした。大変お世話になりました。

記 M・A

9/14(月) : ①班 涸沢ヒュッテ 4:00→ザイゼン取付き 5:00→穂高岳山荘 6:00/6:10→穂高岳

7:00/7:20→紀美子平 8:40→前穂高岳 9:10/9:20→紀美子平 9:40→岳沢ヒュッテ 11:50/12:20→河童橋 13:55

②班 涸沢ヒュッテ 6:10→Sガレ下 6:45/6:50→本谷橋 7:20/7:40→横尾 8:25/8:45→徳沢 9:45/9:55→明神 10:50/11:00→明神池 11:10/12:10→河童橋 13:00→ウェストン碑 13:20/13:25→河童橋 13:40→合流後→タクシー乗り場 14:30=沢渡P 14:45/15:05=岩舟支所P 18:35

明治の末年頃から、日本山岳会の先輩たちが相次いで登り、それまで一括して穂高と呼ばれた岩峰群に、北穂高、奥穂高、涸沢岳、前穂高、西穂高、明神岳という風に、それぞれの名称が与えられるようになった。その最高は奥穂であってわが国第三位である。

—深田久弥の穂高岳紹介文より—

私にとって 3000メートル峰への初登山となる奥穂高岳から前穂高岳への縦走に参加させて頂いた雑感を紹介します。

涸沢ヒュッテを星空の下 4:00 に出発。ザイテングラートに取り付き奥穂高岳山頂へは 7:00 に到着できました。山頂からは360度の大パノラマが広がっており、北には当初の予定であった涸沢岳、北穂高岳が鋭い岩稜を突きつけ、大キレットを挟んで槍ヶ岳が三角形の頭をのぞかせています。

西に目を移せば天に突き出るような岩峰ジャンルムに数人の人影があり、西穂高への厳しい稜線が続きます。



その間に巨体を横たえているのは薬師岳でしょうか!?. 南に見える北岳は私の足元より2メートル高い山。その先に最高峰の富士山が頭を覗かせます。東には大天井から常念、蝶ヶ岳がたおやかに並びます。



北アルプスの名だたる山々はその雄大さ、美しさ、鋭さ、激しさの圧倒的迫力で迫ってきます。

私は山々が発するエネルギーに畏敬の念と大きな感動を覚えました。

大きく深呼吸を1回して。さて、一休みしたら次は紀美子平から前穂高岳へ進みます。次の岩峰は別の大きな感動を私に与

えてくれるはずです。この次もその次も続きます。

今回の山行ではCL、SLに大変お世話になり無事に、そして安全に、さらに楽しく、山行することができました。一緒に歩いて頂いた皆様、誠にありがとうございました。

記 齊藤 修

2日目が雨天のため、3日目の行程を2班に分けてくださり、私たちは奥穂高岳・前穂高岳に登ることになりました。これも、経験豊富なリーダーが臨機応変に対応してくださったから出来ることで、とても感謝しています。

私はというと、ワクワク楽しみな反面一抹の不安もありました。五竜・鹿島槍岳に行けず、10時間の行程・3000メートル級の登山は初めてだからです。

暗い中ヘッドライトを点けいざ出発！スーさんと離れないよう歩くこと1時間半、辺りが



明るくなり、ザイデングラードにて日の出を見ることができました。とても美しかったです。

奥穂高の山小屋までは2時間、思ったより軽快に進めたと思います。休憩をはさみ出発、途中別のパーティーに先行させてもらい、自分たちのペースで登ることができました。

天気は快晴！頂上は360°の大展望、3000メートル級の山々がずらり。そんな中、槍は一段と際立っていました。陰しそうで大変そうだけれど



いつか登ってみたいと思いました。私にとってこの山行で一番しんどかったのが、奥穂から前穂までの吊尾根です。いくつかの尾根を登り降り、景色は素晴らしいのだけれど徐々に膝がガクガク・腿もパンパンになってきて、紀美子平までがとても長く感じられました。

とてもじゃないが前穂頂上は無理！と思っていましたが、いざ紀美子平に着きザックを降ろしてみるとあら不思議、行ける気がしてきました。



頂上は見えず結構な距離、心臓はバクバク（結構早いペースで登りました）でも、四つ這いになったり岩を掴んだり急斜面の登りは楽しいです。

岩峰の頂上は高度感たっぷり。奥穂とは少し違った角度からの眺めになります。やはり素晴らしい！！下りは鎖も手すりも無いけれど、リュックもないので両手を使っておもったより怖くもなくスイスイと降りることができました。こういう下り好きかも！と思いました。

紀美子平からは要注意！鎖やはしごが数か所。ただこちら、岩が乾いていたので滑ることもなく、スムーズに（私的には楽しい！）下ることができました。途中パノラマ展望台は貸し切りで、北アルプス・上高地の眺めに酔いしれました。

さあ、ここからは合流地点までの長い下りです。イヤー長かったです。膝うんぬんよりつま先が痛くなってきました。待ち合わせ時間に間に合うよう、私的には正直必死で歩きました。

上高地の川や池や建物、皆さんの姿が見えたときは、着いた！ヤッター！嬉しかったです。

リーダーはじめ皆さんのお陰で何とか無事踏破することが出来ました。素晴らしい天気の中絶景を見ることが出来、大変良い経験と思い出になりました。ありがとうございました。

PS、下山後のかき氷、美味しかったです。

のどはカラカラ、へとへとだったので生き返りました。ご馳走様でした。



by S・K

感想文



満点の星空と仲間に見送られて出発し、ザイデングラードで真っ赤に登る朝日に感動しました。奥穂へはハシゴが渋滞して、寒さに震え順番を待ちましたが、山頂では名だたる名峰が広がり360度のパノラマを満喫することが出来ました。前穂に向かう吊り尾根は、予想以上に長くて紀美子平に着いた時はホッとしました。そして登った前穂は、いつもInstagramで見っていた標識と最高の景色に大感動しました。

山登り一年生の私にとって1番辛かったのが重太郎新道でした。

酷使した下半身が悲鳴をあげ、無心で必死に上高地で待っている仲間のもとへと向かいました。上高地で仲間が最高の笑顔で私達を迎えてくれ、辛かった思いが一気に吹き飛びました。

記 K.S

2班3名は涸沢ヒュッテから横尾に下り休憩のコーヒーとおやつを頬張ります。天気が素晴らしく展



望があり、登れなかった奥穂に未練を残しながら上高地散策をしました。吊橋が大好きなK子ちゃんの為新村橋を渡り、明神橋を渡り奥穂神社奥宮を見学して、嘉門次小屋前で昼食休憩をとります。そこから梓川を左手に河童橋を目指しました。まだ1班との時間迄に余裕があるので明治時代日本アルプスに魅了され世界に広めた功労者ウェストンの碑を見て、ここまでして河童橋に戻り皆さんの下山待ちしました。残念ながら二日目に雨や雷に遭い、やむなく奥穂の山頂に登る事の出来ない班がありました。

私は怪我なく山を楽しむをモットーに、元気に戻るのが一番と思っています。

またチャレンジをしましょう。お疲れ様でした。

大西 記